

鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会における経過等について

令和6年3月22日

1 設置目的（設置要綱第1条）

多機能複合型スタジアムに係る基本的な事項等について意見聴取及び意見交換するため、鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会を設置する。

2 委員（14名：50音順）

氏名	備考
有賀 真姫	フリーアナウンサー
入江 優平	鹿児島大学
桂田 隆行	株式会社日本政策投資銀行 地域調査部 審議役
志賀 玲子	志学館大学 法学部 教授
瀬戸口 紗弥	鹿児島大学
長崎 美由輝	志学館大学
橋野 佳太郎	鹿児島商工会議所 青年部 会長
平岡 正信	天文館商店街振興組合連合会 代表理事
福永 浩司	鹿児島経済同友会 鹿児島活性化委員会 副委員長
藤崎 美保	全日本空輸株式会社 鹿児島支店 支店長
○ 堀口 讓司	第一工科大学 工学部 建築デザイン学科 学科長・教授
松村 崇司	公益社団法人鹿児島青年会議所 専務理事
山田 聡	日本旅行業協会九州支部鹿児島県地区委員会 委員長
◎ 與儀 幸朝	鹿児島県立短期大学 教授

（◎：会長 ○：会長代理）

3 協議会の経緯

日付	内容
令和5年 7月25日（火）	第1回協議会 これまでの経緯、北ふ頭配置イメージ説明
〃 8月13日（日）	白波スタジアムの視察
〃 9月 7日（木）	北ふ頭の視察
〃 10月18日（水）	第2回協議会 北ふ頭交通量調査、航路利用者アンケート及び稼働率試算等の報告、配置図案の説明
〃 12月15日（金）	第3回協議会 他都市スタジアム・アリーナにおける駐車場及び多機能複合型の事例等の調査報告

4 出された意見の概要

(1) 北ふ頭についての意見

- ・ 北ふ頭は、桜島や錦江湾を望むことができ、スタジアム整備に好立地と考えられる。
- ・ 桜島を望むランドマークのような存在となれば、海外の方にも好印象を与える。
- ・ ペDESTリアンデッキは、人流と物流を分離する一助になり得る。避難をする上でも有効であり、デッキの壁に広告を掲載し、広告収入も見込める。
- ・ ユニバーサル観点で、配慮が必要な人に駐車場がないのは反発も予想される。
- ・ 県や港湾関係者とすり合わせが必要であり、丁寧な説明や議論が必要。
- ・ クラブライセンスを考慮するとスピード感が重要であるが、港湾計画等の変更には長い期間がかかることに不安がある。
- ・ スタジアムと港湾とが一緒になるのは非現実的ではないか。
- ・ 災害が発生した際に、さくら橋だけでは安全面に不安がある。

(2) スタジアム像の検討

- ・ サッカー以外の使い方が大変重要。
- ・ 社会教育の観点からも多機能複合型というのは時流。地域丸ごと博物館、エコミュージアム、防災ツーリズムの観点も取り入れて、目的型観光や教育観光にも良い影響となる。
- ・ シャトルバスについて、商業事業者との連携を考えると、ホテルエリア、繁華街を経由地に設定することで回遊性を生み出すことが可能。
- ・ 現在、時間差でスタジアムを退出するような手法が主流であり、駅に近くても大混雑の懸念は少ないと考えられる。
- ・ スタジアムに行くまでのストリートがにぎわうよう、歩けるまちづくりという考え方が重要。
- ・ 多機能は、すべてが中途半端に終わる危険性もあるため、核となるシーンを決めて、そこから付随してできるものを探っていく考え方が重要。
- ・ エビデンスを揃えた進め方や若い世代の意見を取り入れる手法は良い。
- ・ 今後も、北九州市や広島市など、他都市の事例や状況をしっかり調査することも大事。

(3) 機運向上に向けたアドバイス

- ・ 情報に強い若者すら多機能複合型スタジアムが認知されておらず、行政の情報発信が課題と感じる。SNSも利用しながら発信するべき。
- ・ 市民、県民にももう少し丁寧な説明が必要。積極的に説明の機会を設けると良い。
- ・ 興味のない人や鹿児島ユナイテッド FC の試合結果しか見ない人などを巻き込む取組が必要。
- ・ 協議会やワークショップの取組も様々な意見を聴取する場として継続してほしい。
- ・ スタジアム整備が、サッカー好きのためだけでなく、中心市街地の活性化や回

遊性向上といった地域課題の解決にも意義があることを対外的に示していくことが大切。

5 協議会での意見を踏まえた対応

令和5年 9月 6日（水） 第5回県の利活用検討委員会

【市】 スタジアム候補地の整理及び北ふ頭の検討を説明

〃 11月 2日（木） 第6回県の利活用検討委員会

【県】 ゾーニング素案の提示

【市】 北ふ頭配置図案、県からの8項目の確認事項への回答、第2回協議会資料（北ふ頭交通量調査、航路利用者アンケート及び稼働率試算等）を活用して説明

〃 12月27日（水） 第7回県の利活用検討委員会

【県】 鹿児島港本港区エリアコンセプトプラン（案）北ふ頭：「新たな集客力を有し中心市街地と相乗効果をもたらす機能を導入するエリア」と位置づけ。

令和6年 1月24日（水） 第8回県の利活用検討委員会

【県】 鹿児島港本港区エリアコンセプトプラン（案）について検討委員会として了承。

6 本市の総括

- ・多機能複合型スタジアム検討協議会では、鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会の協議状況を踏まえながら、3回の会議のほか、白波スタジアム及び北ふ頭の視察を行う中で、各委員が多様な観点から、北ふ頭に多機能複合型スタジアムを整備することについての意見をはじめ、スタジアム像や機運向上に向けた考えを述べていただいた。
- ・港湾関係者から寄せられていた「スタジアムは短時間で1万人が退場する。狭いペDESTリアンデッキで対応できるのか心配」という懸念に対して、委員から「今は試合終了後にスタンドエリアごとに時間差で観客が退場する手法が主流」、「ペDESTリアンデッキは、コストの関係が気になるが、人流と物流の交錯はないのでは。また避難上も有効」という肯定的な意見をいただいた。
- ・北ふ頭での配置図案は、駐車場の確保も課題であり、第2回協議会において、委員から「ユニバーサルの観点で配慮が必要な人に駐車場が無いのは反発も予想される。」との懸念が示されたが、第3回協議会において、他都市の事例調査を報告し、「駐車場が少ない計画について、運営に支障がなさそうだと確認できて実現性は高いと感じた。」、「駐車場がないことを逆手にとって、シャトルバスの運行などにより、短所を

長所にもっていくような取組が必要」などの意見をいただいた。

- ・ 県からの8項目の確認事項において、「経済団体、商店街関係者などの意向把握」との確認事項があり、当協議会には、それぞれの関係者に参加いただいております。商店街関係者の委員からは「天文館地区からは、人が郊外へ流れ出ている現状。やはり中心部に文化的、スポーツ的な施設の充実が必要ではないかと考えていた。」という意見、また、経済団体の委員からは「商工会議所としては様々なところが発展していくことが一番望ましい。人流物流が活性化し、経済効果が生まれ、鹿児島県の発展につながる。」という意見が寄せられ、意向の確認ができた。
- ・ 同じく、県からの8項目の「グランドデザインとの整合性」の確認事項についても、委員から「水族館の来館者も喜ばせる相乗効果を狙ったスタジアムの建設が必要」、「サッカーやラグビーなど、スポーツに興味がない人を取り込むきっかけにもなるし、エンターテインメントになり得ると思う。」、「諸外国から来るクルーズ船の着岸というのは商店街からも非常に魅力的」など、新たなにぎわいの創出につながる観点からの意見をいただいた。
- ・ 本市としては、これらの意見をくみ取りながら、配置図案に対する課題（ペデストリアンデッキ、駐車場）の検討や、各種調査を行った上、鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会において説明をし、鹿児島港本港区エリアコンセプトプラン（案）において、北ふ頭が「新たな集客力を有し中心市街地と相乗効果をもたらす機能を導入するエリア」に位置付けられたことに繋がったものと考えている。
- ・ 令和6年2月、北ふ頭での検討を白紙に戻し、新たな候補地を選定することとなったが、当協議会では、本市に望まれるスタジアム像や機運向上についての意見も多く出されたことから、引き続き、これらの意見を今後の検討に活かして取組を進めてまいります。